

エゾアカガエル

Rana pirica

アカガエル科

名前の由来

北海道に生息するアカガエルであることから。アカは体色が赤褐色であることからだと思われる。漢字名：蝦夷赤蛙



エゾアカガエル

ニホンアマガエル

Hyla japonica

アマガエル科

名前の由来

日本に生息するアマガエル。アマガエルは降雨中または雨が近づくと鳴く習性によると思われる。漢字名：日本雨蛙



ニホンアマガエル

形態的特徴

エゾアカガエル：体長はオス46～55mm、メス54～72mm。全身茶色で、背中に隆条（盛り上がった部分）がある。指には吸盤は無い。幼生は全長45mmに達し、胴部背面に暗色の斑点は無い。鳴き声は「クーワ・クーワ・・・」と聞こえる。

ニホンアマガエル：体長はオス22～39mm、メス26～45mm。体色は黄緑色から灰色まで変化する小型のカエル。指には吸盤がある。背中の隆条（盛り上がった部分）は無い。成体が小型である割に、幼生は大きく、50mmに達する。体が肥厚し、目の間隔が広く、吻が短い。鳴き声は「クワッ・クワッ・クワッ・・・」と聞こえ、非常に大きな声でよく鳴く。

類似種と見分け方

北海道のカエルはエゾアカガエルとニホンアマガエルの2種のみで、間違える事はほとんどないと思われる。アマガエルも茶色になる事があるが、アマガエルの指には吸盤があるがアカガエルには無い。

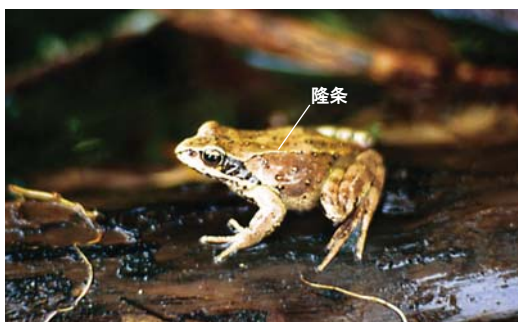
また、アカガエルの背には隆条があるが、アマガエルの背には無い。



ニホンアマガエル
吸盤はあるが、背に隆条はない



ニホンアマガエル(左)と
エゾアカガエル(右)の後肢



エゾアカガエル
吸盤はないが、背に隆条がある

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
出現期				■								
冬眠期	■										■	
繁殖期				■			■					
				エゾアカガエル			ニホンアマガエル					

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生息環境・分布

エゾアカガエル：森林や草地に生息するが、海辺の平地から標高2000mの大雪山にまで分布する。

繁殖は湿原、湿地、池、河川敷や道路の水たまりなど浅い止水で行われるが、ゆるい溪流のたまりなどでも産卵する。冬眠は池の底や岸沿いの川底でなされると考えられている。

分布：国外分布は、サハリンに分布(別種との見方もある)。国内分布は、北海道に分布。北海道内では、北海道とその属島の平地から標高2000mの高地まで広く分布。

十勝地方では、平地から高地まで広く分布。

ニホンアマガエル：森林、草原。灌木や草の上で生活する。繁殖は湿原、湿地、池、河川敷や道路の水たまりなど浅い止水で行われる。

浅い土中、堆積した落葉の下、樹洞など陸上で冬眠する。

分布：国外分布は、済州島、朝鮮、バイカル湖から沿海地方、サハリン、中国北部に分布。国内分布は、北海道、本州、四国、九州、佐渡島、隠岐、杣岐、対馬、大隅諸島などに分布。北海道内では、北海道全域、国後島に分布。

十勝地方では、平地から山地に広く分布。

食性・他生物との関わり

エゾアカガエル：昆虫などを食べる。

シマヘビやモズなどの鳥類、猛禽類、フクロウ類などの餌として重要。シマフクロウの春期の餌として大きな割合を占める。幼生は越冬したエゾサンショウウオの大型幼生の

餌になる。

ニホンアマガエル：昆虫などを食べる。

魚類やモズなどの鳥類に捕食される。シマフクロウに捕食された例もある。

繁殖生態・寿命

エゾアカガエル：通常繁殖期は4～5月である。高所に生育するものは、7月に繁殖する場合もある。

繁殖場所は池や水たまりといった止水の浅い箇所である。

産卵数は700～1,100個、ゼリー層に包まれた卵径1.7～2.3mmの卵を産む。

幼生(オタマジャクシ)はその年のうちに変態、上陸する。2～3年で性成熟するが、環境によっては5年を要することもある。寿命は不明。

ニホンアマガエル：十勝では6月下旬から8月上旬に産卵し、250～800卵を産む。卵は1.2mm程で、ごく少数の卵を含む卵塊として産み出され、水草などに付着する。

幼生(オタマジャクシ)は成体が小さい割に大型で、50mmにも達する。7月下旬～8月中旬にかけて変態し、上陸する。寿命は不明だが5年以上生きた記録がある。



エゾアカガエルの卵塊(左)と幼生(オタマジャクシ)(右)

興味深い話

■エゾアカガエルの学名についての「pirica」は「綺麗な」という意味のアイヌ語に由来し、美しいアカガエルという意味。

■アマガエルは周囲の環境によって、黄緑色から灰色まで体色変化が著しい。

■アマガエルの皮膚からは毒が分泌されているので、アマガエルを触った手を洗わずに目をこすったりしない様に注意が必要。

■十勝地方のアイヌ語では、カエル類を「ピッキ」といい、エゾアカガエルを「オオアツ」と呼ぶ。



黒斑の浮かんだ
ニホンアマガエル

配慮事項

繁殖可能な池や湿地などが必要であり、同時にその周辺の草地や森林が存在し、成体となった後の生息場所が連続し

て存在することが大切。また、岸の勾配を緩いと、変態後の上陸が容易となる。

参考文献

「改訂版 日本カエル図鑑」松井正文・前田憲男 文一総合出版 1999

「実用鑑定野生動物痕跡学事典」門崎允昭 北海道出版企画センター 1996

「決定版日本の両生爬虫類」内山りゅう・前田憲男・沼田研一・関慎太郎 平凡社 2002

「十勝大百科事典」十勝大百科事典刊行会 北海道新聞社 1993

「水辺の生き物と遊ぶ図鑑」おくやまひさし 地球丸 2000年

「川の生物図典」奥田重俊 他監修、(財)リバーフロント整備センター 編集 山海堂 1996年

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編集、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

「知里真志保著作集 別巻 I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ